

登りそびれていた会津の山・大白森山&箕輪山（個人山行）

（報告）赤澤 東洋

企画担当として高齢者対象に 2014 年 9 月の田代山&大嵐山以来毎年続けてきた会津の山シリーズ、2021 年 3 月の西大巔&磐梯山スノーシュー山行が最後になってしまったが、これはコロナ禍さることながら、80 歳という大台を迎え急速に体力減退しリーダーとしての職責をもち果たす事が出来なくなってしまったからに他ならず真に申し訳なく思う。実は次回があればここにしようと狙っていたのが表題の二山だった。いつか行ってみたいと心の片隅にずっとあった山、いよいよ後が無くなってきた今こそラストチャンスと漸く重い腰を上げる事にした。今年の夏は記録破りの猛暑続きで意気消沈、7 月から丸々 3 ヶ月巣籠り状態が続いたので無事歩けるものかどうか、不安抱えていざ会津へ。

1. 大白森山（おじろもりやま） 1642m

◎期日：2024 年 10 月 21 日 ◎メンバー：赤澤他 1 名（妻）

あまり人に知られていないこの山を知ったのは川崎精雄（かわさき まさお）氏の「雪山・藪山」茗溪堂・昭和 44 年刊（文庫版は昭和 55 年・中公文庫）の「那須から二岐温泉」（昭和 39 年秋）の項による。氏は中大山岳部 OB、銀行マンを続けながらより確かな、より深い山登りの境地を求めて主として会津、奥利根、上信越のひとけのない無名の雪山、藪山に分け入り「アルプ」等に興味深い紀行文を発表、私が最も影響を受けた登山の先達で「雪山・藪山」は我が座右の山書の一つとなっている。

いざその気になって調べてみると山と溪谷社の「新・分県登山ガイド福島県の山」の中に大白森山が入っていない事が分かった。選ばれた 63 山の中に近くの二岐山や赤面山が含まれているのに大白森山が入っていない事に釈然とせず、ともかく行って確かめねばとの思いが強まった。登山路については他のガイド本では川崎精雄氏の辿った那須連山から二岐温泉へ抜けるコースと甲子温泉大黒屋から甲子山をトラバースし甲子峠から往復するコースと二つのルートが紹介されているのが分かったが、二岐温泉からの縦走はあまりに長すぎこちらはまず却下。甲子温泉大黒屋は 05 年 8 月大塚、川崎両氏と宿の駐車場に幕営し阿武隈川南沢を遡行した思い出の場所、三人共初めての未知の沢、遡行図だけを頼りに緊張を強いられ何とか登り詰めた甲子山からは駆け下ったが、その時の印象が狭く急だった記憶があり、あれを登るのはチョッとキツイかもとネットで調べると通行止めで車はダメだが甲子峠まで林道が通じている事が分かり迷わず楽な方へ目が向いた。安易な方になびくのは気がひけるところだが、ここはまあ 82 歳という年齢鑑みお許し願おう。

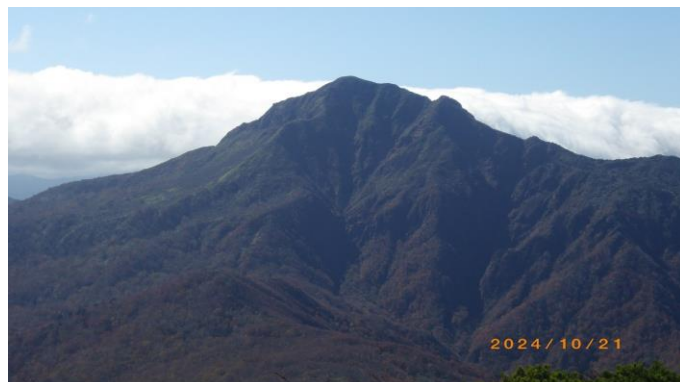
10 月 21 日（月）朝 5 時に自宅を出る。まずまずの天気、東北自動車道は空いていて 2 時間余りで白河 IC を出て国道 289 号線へ。新甲子トンネルを抜け 1 km 程先右手に「林道甲子線」への入り口があった。舗装された車道をこれまた 1 km 程先で通行止めのゲートとなり道路脇に駐車する。標高は約 1000 ㍎。予定より 1 時間早く 8 時出発、これはラッキーと気を良くする。新甲子トンネルが開通するまでは利用されていたらしい林道は落石や木の枝が散乱し荒れているが、歩行には何の支障もなく少し手を入れてくれれば今でも十分に車も可能と思われる。期待した紅葉は早すぎたのかイマイチ冴えない中、テレテレと続く林道歩きはなかなか高度が上がらないが、ハーハー、ゼーゼーとすぐに息があがり立ち止ってしまう急登を思えばこれで良いのだと己に言い聞かせるが、それにしてもなかなか先が読めず長く続く林道。1 時間 20 分位かと想定したタイムを 30 分もオーバーし漸く甲子峠着、標高 1400 ㍎、ここで初めて大白森山の全貌に接する事ができた。文献では紅葉最盛期のハズだが今一つ冴えない。記録破りの猛暑日続いた今夏、樹木も暑さに敏感に反応し戸惑っているという事か。峠は車 5~6 台駐車出来る位の広さだ。

古びた指導票に導かれ左手の小尾根に取りつく。広い尾根に細い登山道は緩やかな登りで歩き易く、これはよしよしと思ったがそれも束の間、30分程で枯れ沢へと降り、ここからいきなりトラロープの垂れ下がる歩き難い急登の連続で緊張強いられアゴがあがった。前日の雨で濡れた岩はよく滑り後を付く相棒も多いに難儀しているが、それにかまう余裕なく自分の事に精一杯、揺れるロープは不安定で心細く左手にロープ、右手は木の根、垂れ下がる枝や岩角、笹の葉と手に触れるものに片っ端から縋りつき這い上がる。川崎氏の「雪山・藪山」ではたった2行「枯れた沢の源頭をつめる急登で、馬酔木や石楠花の地帯に出てワンピッチで頂上着。休憩した場所から1時間であった」と簡単に記されているが、そんなアッサリしたものではなく、特筆に値するような難所ではないかと思う。

ゲートから3時間15分かけて立つ頂上は紹介された通り360度の大展望、目の前に丸い小白森山と二岐山が大きく、その先に薄く猪苗代湖や磐梯山が望まれるが今一つ清澄度に欠けるのが残念だ。そして南の旭岳(1835m)。これは別名赤崩山とも呼ばれ高さはないがどこへ出しても恥ずかしくない堂々たる風格、登山路は無く積雪期しか登れず川崎精雄氏の「続・静かなる山」(茗溪堂・昭和55)の「赤崩山」に拠れば氏は1978年5月、71歳の時に地元の室次男氏達と甲子温泉大黒屋から約5時間かけて登っている。「行って見たかったがもう無理だろうなあ、ウーン残念」しっかりと目に焼き付ける。

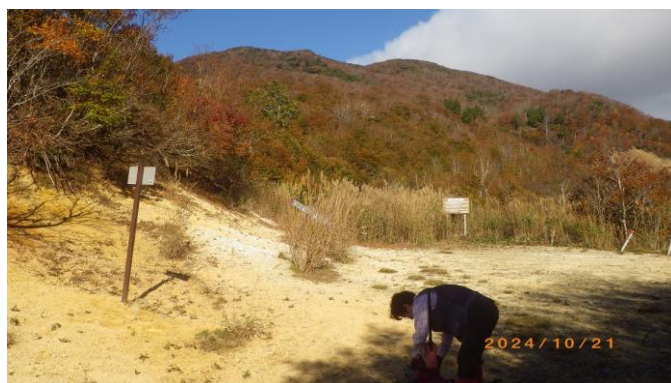


大白森山山頂より小白森山(手前)と二岐山(左後)



登攀意欲をそそる別名赤崩山とも云う旭岳

頂上を堪能し下山にかかったが、枯れ沢の急なガレ場で岩に気を取られ下ばかり見ていて標識を見落としてしまい、尾根への取付き点をミスしそのまま沢を下ってしまった。20分程でどうもおかしいと思い、地図を確認するとそのまま下っても林道に届きそうだが、知らない沢は下るなという教えを思い出し登り返す。古い標識は藪で見難く全体的に長い間登山道の整備が成されて無いようで、この辺が福島の山63に選ばれなかった理由なのかもしれない。



甲子峠より大白森山

ドジやらかしてかれこれ約1時間ロス、川崎精雄氏が絶賛していた錦秋には程遠く、甲子峠からの長い林道歩きは下りでも1時間15分かかり随分草臥れたがともあれ何とか歩き通せたのでヨシとせねば。誰にも出会うずこれが静かな会津の山、機会設けて次は二岐温泉から小白森山に登ってみようかと思う。下山後はナビに導かれ斎藤山&小野岳(2017年)、大峠&二岐山(2018年)山行で懐かしい小野上温泉経由で裏磐梯に出て西大巔&磐梯山でお世話になった裏磐梯国民宿舎に5時前に到着できた。

《コースタイム》

甲子林道ゲート 8:00⇒9:50 甲子峠 10:05⇒11:15 大白森山 11:25⇒13:25 甲子峠⇒14:40 林道ゲート

(追記)

- 1) 大白森山等南会津の山がポチポチ登られ始め中央に知られるようになったのは昭和10年代後半からで、川崎精雄氏(1907~2008)はその先駆者の1人である。大白森山は当時地元から直接登るルートは無く漸く昭和34年に白河の「南会津山の会」室次雄氏等により2年がかりで切り開かれた由。「南会津山の会」は山岳会としては異形で南会津を愛する川崎隆章、川崎精雄、望月達夫等東京の岳人と地元の岳人とにより結成されたもので山歩きは各自勝手、集会の時だけ顔を合わせるといふ勝手気儘、世に知られぬ変わり者の集まりで年1回秋に合同総会があり、冒頭の川崎精雄「那須から二岐温泉」紀行は昭和39年の会総会が那須の三斗小屋温泉で開かれた時のもので、川崎隆章氏編集の昭和33年から発行された会報「いろりばた」は今や入手困難な希少本らしい。隆章氏は「山と溪谷」社の編集長、この手の会報はお手の物であったろう。又、会が主体となり取り纏めた「会津の山々・尾瀬」(修道社・昭和35)には室次雄「静かな山大白森山・小白森山」、長谷川末夫「鎌房山・大白森山・小白森山縦走」が載っており当時の様子が実に興味深い。
- 2) 「山の本」白山書房を通じて知遇を得た北杜市の「ロジック山旅」の経営者長沢宏氏に川崎精雄氏への思いのたけを熱く語った事があり、それを覚えていてくれた氏が有難い事に偶々横山厚夫氏とロジックに宿泊された川崎氏に「雪山・藪山」を手に入信越や奥利根の山々を歩き回っている友人がいると話をしてくれ、私の為に「白樺に日はまともなり 牧の秋」なる句を色紙に書いて頂き送ってくれた。感激した私は川崎氏のお住まいを調べ御礼に群馬のリンゴ1箱と発売されたばかりの我が紀行文「清水峠の雪原にて」が掲載される「人はなぜ山へ」(白山書房・2002・11)をお送りした所丁重なるお返事を頂くという尊敬する先達と嬉しい接点を持つ事ができた。30年来の岳友で画家の上田哲農は川崎氏を評して「彼は本当に登りたいと思う山を探し出しこつこつと登っていて時流に惑わされない頑固な人」と記しているが、私もそこに魅かされている次第。
- 3) 新甲子トンネル(全長4.3km)は南会津地区の悲願であったが山奥の豪雪地帯の為工事は難航を極め工事開始から開通まで33年を要し、2008年9月開通した。

2. 安達太良連峰最高峰・箕輪山(みのわ) 1728m

◎期日:2024年10月22日 ◎メンバー:赤澤他1名(妻)

安達太良山は積雪期、無雪期合わせ複数回登り、南面の杉田川・不動沢を遡行し仙女平から安達太良温泉に下った事もあり親しみを感じている山の一つだが、連峰の最高峰箕輪山に未踏なのがずっと気になっていた。南北約9kmに渡って連なる複合火山である安達太良連峰の主峰は乳首山とも称される安達太良山だが、その最高峰は箕輪山なのだ。南方郡山方面からでは目立たないが、福島側からだるとひととき高く見えて主峰乳首山より凡そ20%程高いこの山が最高峰というのがよく分かるはずだ。安達太良山といえば何といても高村光太郎の智恵子抄とくろがね小屋であり、「日本百名山」の深田久弥は岳温泉側から入山しくろがね小屋に宿泊、翌日山頂を極め戊辰戦争の爪痕残る母成峠へと下っており、箕輪山は箕ノ輪山と紹介されている。

22日朝、早起きし近くの五色沼散策、毘沙門沼、赤沼と回ってきたがここも紅葉は期待外れだった。朝食後、国道115号線を福島方面へ走行、途中県道30号線に入り間もなくして横向温泉登山口に着く。この頃は懐かしの磐梯山も西大巔も見え、ますますの天気とほくそ笑んだのだったが。右手の箕輪スキー場に沿ってミズナラからブナの樹林帯へと続く登山路は落葉が積もり秋の風情たっぷり、2度スキー場の管理用

林道を横切りスキーリフトと並行するようになると視界も開けてきたが天気はいつのまにか変化し磐梯山もガスの中見えなくなってしまう。出発から1時間半程で最終リフトとなりそこから先が想定以上に歩き難い大石ゴロゴロ、窪地の中の枯れ沢の急登となり、これがキツかった。昨日の大白森山の急登を思い出したがこちらにはトラロープは無く、岩から岩へと石を伝い歩かねばならず若い頃なら下りだったらヒョイヒョイと飛び伝えた程度の岩場でも今は



横向登山口

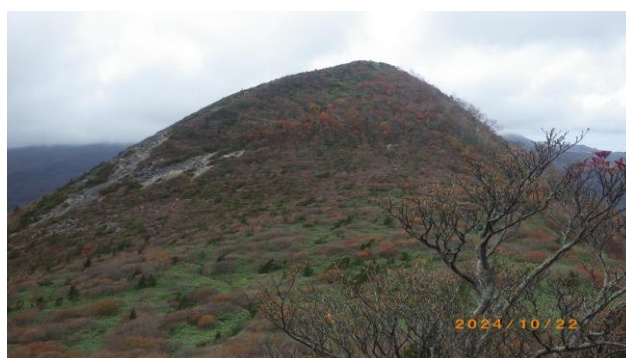
バランス悪く尻っ放り腰にならざるを得ず情けない。28年のロス五輪では近代五種は馬術に代わりSASUKEが採用されるようだがあのTBSの人気番組を思い出し80越えた老兵のやる事じゃあないなあとブツブツ。雨こそ降らないまでもすっかり乳白色の濃霧につつまれ天気は悪化する一方、視界数十mに寒さが加わりまったく意気上がりずガイド本では2時間とある所を50分近くオーバーして漸く山頂に立つ事が出来た。展望が売りの山でも何も見えないのは残念だったが、ともあれ安達太良連峰の最高峰に立てた事に満足しすぐに北方の鬼面山へ向かったが、こちらは大きな岩や石は無いものの深くえぐられた急坂は2日前の雨で滑り易い酷い悪路、思わずつかむ細枝が折れて2回転倒、2回尻もちついてドロドロになった相棒はすっかりお冠、こんな筈ではなかったとこちらも色を失う。

途中7~8名の中老年グループと出会ったが、新野馳温泉から入山し薬師岳に向かうという。皆さんからかなり遅れて登ってきたオバさんひとり「酷い道だ」と嘆いていたが12時半頃で少し遅い時間なのが気になった。今、安達太良ロープウエーは平日運休らしいのだが。

午後になると次第に霧が薄れて前方に鬼面山、振り返るとなだらかな箕輪山と視界良好となり少し元気が出て鬼面山、旧土湯峠へと抜け無事横向登山口に下山出来た。手元のガイド記事では紅葉最盛期は10月上~中旬とあり、今年は遅れているとの事で丁度いいかと思ったが22日でも早すぎる位だった。花よりも紅葉の方が時期を見極めるのが難しい事を確認する山行であった。



ゆったり穏やかな箕輪山（鬼面山への途次振り返って）



鬼面山（箕輪山からの尾根道から）

《コースタイム》

横向温泉登山口 8:30⇒9:55 最終リフト⇒11:20 箕輪山 11:30⇒13:20 鬼面山⇒13:50 旧土湯峠⇒14:35 横向温泉登山口